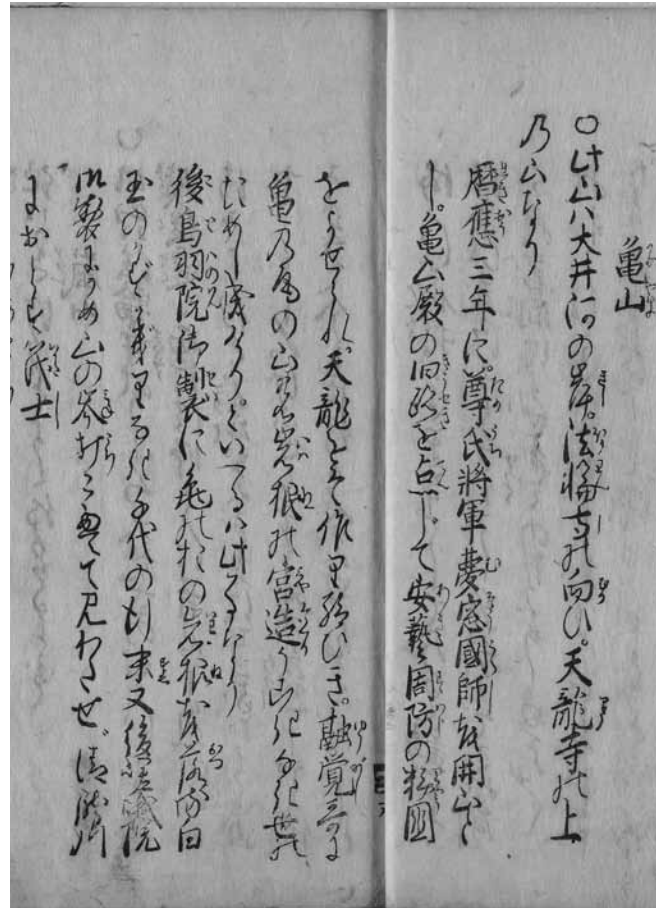


# 卷十一 龟山



京都府立総合資料館蔵

## 龟山

这座山在大井河的河边，法輪寺的对面，耸立于天龙寺上方。

历应三年幕府将军足利尊氏修整龟山殿，又捐献安芸国、周防国上缴的租税，以梦窗国师为开山祖师建立了天龙寺。融觉的和歌——龟山山麓宛如巨岩般不可动摇的宫室的营建是天皇永续统治的证明——便是说的这件事。

后鸟羽天皇御制的和歌中有这样一首：从龟山山峰上的巨岩飞流直下的瀑布中仿佛玉珠的水泡，如这水泡般无穷无尽的是天皇圣明的统治。

后嵯峨天皇的御制中还有这样一首：隔着龟山环顾四周，撑筏人巧妙地撑着筏，在清泷川的水面上仿佛滑落般地前行。

(張 凌志 訳)

### 【現代語訳】

○この山は大井河の岸に位置し、法輪寺の向かいで、天龍寺の上方の山です。

暦應三年に尊氏將軍は夢窓國師を開山とし、亀山殿の旧跡を整備して安芸国・周防国からの租税を寄進して、天龍寺を建立なされました。融覚の歌に、

亀山の峰の麓に巨岩のように揺るぎない御所が造営されることは永遠と続くご治世の証しなのだなあと言っているのはこの事です。

後鳥羽院の御歌には

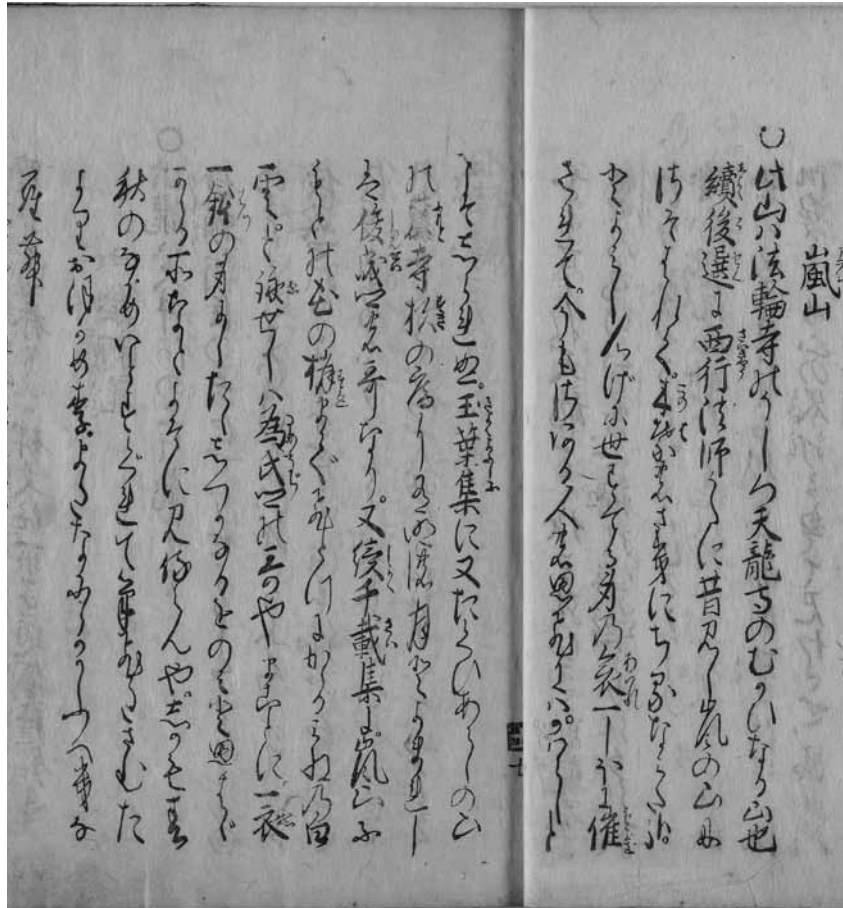
亀山の峰にある巨岩を走り落ちる滝水の泡の白玉のように数限りなく永遠に続くめでたい治世だなあまた後嵯峨院の御歌には

亀山の峰を越えて周囲を見渡してみると、筏乗りが清滝川の流れをすべり落ちるように巧みに筏を操っているな

あ

(藤原英城)

卷十一 嵐山



京都府立総合資料館蔵

嵐山

这座山位于法轮寺背后，天龙寺对面。

《续后撰集》中有这样一首西行法师的和歌：心中向往以往得见的岚山，于是步入其中，山如其名，肆虐的暴风雨中（日语中岚有暴风的意思——译者注），先于树叶飘零的是我的泪水。

人们可以深深体会到吟诵这首和歌时，西行法师那种舍弃了尘世的境遇下的悲哀。想必现在抛弃了凡尘的人的心情也还是一样的吧。

《玉叶集》中有一首这样描写岚山的和歌：有着无比韵味的岚山山脚下的寺院，一轮残月映照着杉树林中的僧庵。

这首和歌是藤原俊成所作。《续千载集》中还有这样一首和歌：

和岚山山脚下樱花树的花枝连成一片的，是那山峰上的白云。

做这首和歌的是藤原为氏。如果有朝一日真的成了托钵的僧人，一心寻求寂静的境界，那就没有比这里更理想的处所了。而且这里春秋景色动人，应该会让人禁不住文兴大发。敢问这世上还什么地方可以取而代之？

（張 凌志 訳）

【現代語訳】

○この山は法輪寺の背後に位置し、天龍寺の向かいにある山です。

『統後撰集』には西行法師の歌として、

昔見た嵐山に誘われて分け入ってはみたが、その名にある嵐のせいで散る木葉よりも先に散り落ちる涙だなあ  
と詠んだ心は本当に世を捨てた身の境涯の哀れさが一層思い起されて、今もそのような世を捨てた人の思いには変わ  
りがないことだろうと思われます。『玉葉集』に、

他に類はあるまいと思われるほどの趣ある嵐山の麓の寺だなあ。杉林の中の庵室に有明の月の光がさすことよ  
と詠まれたのは俊成卿の歌です。また『統千載集』に、

嵐山の麓の桜の花の梢までも白く一体となっかかる白雲だなあ  
と詠まれたのは為氏卿の歌です。本当に托鉢の身となり、ただ閑寂な境涯を求めるのなら、このような理想的な場所  
は他所にはありません。しかも春秋の眺めはとてすばらしく、文事の素材となることも多いようです。どうして何  
か他に代えることができましようか、いやできはしません。

(藤原英城)